

平成 24 年度第 4 回診断評価等基準委員会議事録

開催日時：平成 25 年 1 月 18 日（金）17:00-18:00

開催場所：ホテル日航東京 1 階 ジュピター

出席者

紺野慎一（担当理事）、竹下克志（委員長）

笠井裕一、金山雅弘、寒竹 司、田中信弘、種市 洋、橋爪 洋、松永俊二、
細野 昇（委員）、川上 守、高橋和久、福井 充、宮本 雅史（アドバイザー）

1. JOACMEQ、JOABPEQ 健常者調査について

① JOACMEQ 健常者調査について（担当：田中委員）

田中委員より、福井充先生によるデータ解析が終了し、現在論文執筆中であることが報告された。

② JOABPEQ 健常者調査について（担当：橋爪委員）

橋爪委員より、既に 6 施設から調査票の提出があったこと、本年 2 月末が調査票提出の締切であることが報告された（別資料あり）。

2. プロジェクト研究進行状況について

① 「腰椎変性すべり症に対する手術治療法の有用性に対する JOABPEQ を用いた多施設前向き研究」（担当：寒竹委員）

寒竹委員より本プロジェクト進行状況について回答のあった 8 施設の進行状況が報告された（別資料あり）。

金山委員より画像評価法の詳細について質問があった。骨癒合の判定方法、隣接椎間障害の定義について現時点では曖昧な部分があるので、それらを改めて検討し、寒竹委員より報告して頂くこととなった。

② 「腰椎変性側弯症の健康関連 QOL 低下に及ぼす X 線学的（脊柱変形）パラメータを検討する多施設横断研究」（担当：種市委員）

現時点でデータを提出しているのは函館中央病院と和歌山県立医科大学紀北分院の 2 施設であること、また、画像計測の reliability について東京大学と共同で検証中であり、検証が終了次第、業者による本格的な解析に入る予定であることが報告された。

③ 「術者によって頸椎症の手術成績(JOACMEQ)に差があるか」（担当：細

野委員)

5施設で進行中。症例の集積は順調であるが、JSSR2014で発表できるかは不確定であることが報告された。

3. その他

- ① JSSR2014 へのシンポジウム・パネルディスカッション依頼について
橋爪委員より、現在和歌山県立医科大学において JSSR2014 年のプログラムの枠決め作業が進行中であること、当委員会よりシンポジウム・パネルディスカッションの依頼を行う場合は早めに吉田宗人会長に連絡して欲しい旨、報告があった。アウトカム評価に関するシンポジウムを組んで頂き、その中に当委員会のプロジェクトを3題前後組み込んで頂くよう、竹下委員長から吉田会長に依頼することとなった。
- ② プロジェクト研究へのインセンティブについて
紺野担当理事より、JSSR 指導医制度委員会で検討することになったことが報告された。
- ③ JOABPEQ/JOACMEQ iPad アプリ（電通サドラー・アンド・ヘネシー社）について（宮本雅史アドバイザー、別資料：仕様書あり）
協議の結果、以下のコンセンサスが得られた。
最終的には JOA での承認が必要である。
ファイザーが協賛して JOA が電通サドラーに依頼する予定である。
アプリ画面にファイザーのバナー広告が掲載されることになるが、広告を患者の目に触れないようにする必要がある。JOA でもこの点が最も問題視されているようである。
JOA より、アプリの試用を本委員会で行って欲しいとの依頼があった。JOA 理事会では、他の評価法も一緒に組み入れる案もあり、予算を立てるための具体的な仕様を明確にして欲しいとの意見があった。（反対ではないが、まだ理解が十分に得られていない）松末先生からアプリ開発費、バナー広告をどうするか明らかにして欲しいとの意見があった。
本委員会の意見として
まず、広告が目立たない形で試作を作って頂き、委員会の中の何人か（3人程度）で試用した後に、結果を PowerPoint にまとめて委員全員で検討する。その後 JOA に報告する。
アプリ上で統計処理まではしない。（仕様書 17 ページまで）

ネット経由でデータ転送の際に、個人情報保護をどのように行うか検討が必要。電通に調査を要請する。
次回委員会までに形を作りたい。

④ JOACMEQ、JOABPEQ マニュアル本の販売状況について

笠井委員より、現時点で販売部数が 320 冊と少ないので、各施設で購入を推奨して欲しいとの報告と要請があった。

4. 次回予定について

脊椎脊髄病学会期間中（4/25-27）に行う。